2014 年 7 月 12 日 SRC 発表資料

テーマ　世代を超えた健康づくりへ　- みんなの食卓の仕組みづくり -

梅澤ゼミ 4 年瀧沢佑汰

はじめに

本研究のきっかけは、私が大学二年からかかわってきた諏訪小学校菜園プロジェクトでの活動です。プロジェクト活動を行っていく中で地域内での関係性の希薄さを感じました。

その一例として、諏訪小学校菜園プロジェクトで野菜バザーを開催した際、小学校側と商店街の方がお互いのことを認知していないということがありました。

地域プロジェクトで菜園に関わっていく内に食の大切さを知る一方、ゼミ内での他プロジェクトのイベントに参加した際に多くの高齢者の方々と接し、話しをしたことから多摩市の高齢化問題を実感しました。

そこで私は、食を通して高齢者の方や子どもの健康を守れるような仕組みづくりができないかと思い、本研究をテーマとし卒業研究を行うことにしました。

１．諏訪小学校プロジェクトとは

戦後の日本における都市化、人口減少により地域の崩壊が問題となっています。加えて少子高齢化社会では、人と人との関係性が希薄になり、地域力の低下が問題となっています。

本プロジェクトは、1960 年頃まで日本のコミュニティや町内会で見受けられた「お隣同士で物を貸し借りできるようなつながり」、「世代を超えた多様な人と人との関係づくり・交流」を菜園という仕組み（デザイン）を通じて再生させることを目的とし始まりました。多摩市は学校・家庭・地域のそれぞれの強化を図り、三者連携をすることによって子どもたちの育成を目指し取り組みを行っています。私たちは三者連携の発展を促進し地域交流を目指すこと、地域に開かれた学校、地域と児童や保護者が世代間交流することを目的として「小学校でのみんなの菜園」を考えました。そこで「特色のある教育」として農業活動が盛んな諏訪小学校に企画書を持参してお願いにあがり、諏訪小学校での農業活動を通して、学校と地域をつなげるコーディネーターとして活動を目指し活動を行っています。2012 年度に始まった本プロジェクトは今年 3 年目を迎えています。

２．みんなの食卓とは

高齢者の方と、両親が共働きで夜食事を 1 人なければならい子どもを対象に、近隣に住んでいる方で集まり食事をする場です。その理由として、高齢者はコミュニケーションの場の減少・孤食の問題を改善したい、子ども達については、両親が共働きのさびしい食卓を皆で話しをしながら心豊かな食事にし、栄養管理・親の心配の解消を行うためです。

３．研究の動機・目的

あまり外に出る機会が少なかったり人と接することの少ない高齢者の方や両親が共働きで夜、家に一人でいることの多い子供たちが一緒に食事をすることで高齢者の方は一つの交流の場をとも働きをしている親にとっては安心できる場を提供することが目的である。そのうえで高齢者・保護者・子供がコミュニティーに求めているものを調べ世代間交流・児童や高齢者の安全・地域活性化させるためにどのような方法があるか調べていく。

４．本研究の社会的意義

両親が共働きで夜、家に一人でいることの多い子供たちが一緒に食事をすることで高齢者の方は一つの交流の場をとも働きをしている親にとっては安心できる場を提供することができ、子供の栄養不足を補うことができる。コミュニティ再生のきっかけづくりの１つになると考えている。高齢者の方に対しては孤食をする機会が少なくなる。

４．研究内容

（１）実施に向けてのヒアリング

ひじり館運営協議会山本さんより「みんなの食卓」を実現してほしいという要望をいただいている。実施にむけて具体的な検討を行うために、課題点やゴール設定のための聞き取り調査を行う。

（２）先行事例の検討

①コミュニティデザイン関連の文献から先行的な事例を調査する。

②先行的な事例を見学する

５．まとめと考察

聖ヶ丘エリアでの取り組みを提案する

６．今後の予定

4～6 月　先行研究の収集

7～9 月　情報収集、フィールドワーク、聞き取り調査、
　　ひじり館連絡協議会との打ち合わせ

9～10 月 論文まとめ

11 月～12 月ＳＲＣ発表準備

1 月卒業論文の完成

参考文献

『小児・児童期おける家庭の食事環境がその後の親子関係に及ぼす影響』
後藤紀子・矢澤九史・大澤香織　東海学院紀要　２００９年
『子どもの食生活を考える一食生活と心身の健康に関する調査を通して一』
田中純子　情緒障害教育研究紀要　１９９８年
『地域独居高齢者の食生活状況に関する調査研究』
谷野英和　植村弘　橋本加代　横溝佐衣子　福尾恵介　武庫川女子紀要　２００７年